

# VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

「知のかけはし科目」対談

## 「幾何学×江戸文化」から生まれる刺激的な学び

人文学科 日本文学専攻 教授 光延 真哉

数理科学科 情報数理学専攻 専任講師 小館 崇子

「知のかけはし科目」対談

# 「幾何学×江戸文化」 から生まれる 刺激的な学び

今年度からスタートした「知のかけはし科目」。  
異なる学問分野の教員2名がペアになり  
学問領域を超えた学びを提供するものです。  
本学のリベラルアーツ教育の礎となる新たな取り組みについて、  
「幾何学」と「江戸文化」を融合させた授業を進める  
おふたりにお話をうかがいました。  
「知のかけはし科目」ならではの授業内容から  
学生の様子までご紹介します。

\*以下敬称略

\*本対談は、2024年5月に行われたものです。



「知のかけはし科目」  
35科目の概要



Web版対談  
Vol.01



## 「幾何学×江戸文化」の視点から 「図形」を学ぶ

**光延** 異分野の学びを掛け合わせる「知のかけはし科目」は、学生にとっても、また教員にとっても新たなチャレンジです。私たちの授業では小館先生のご専門である「離散幾何学」と私が専門とする「江戸文化」を組み合わせて、「図形を離散幾何学と江戸の美術から考える」というテーマで学びを進めています。

**小館** 離散幾何学という分野はまだあまり知られていませんが、ビジュアル的な面白さのある「タイル張り」という問題なども学べる魅力的な学問です。この内容なら文系の学生も楽しく数学を学べるのではないかと考えて学習テーマに選びました。「タイル張り」とは、数種類の図形で重なりも隙間もなく平面を敷き詰める数学上の問題のことで、スペインのア

ルハンブラ宮殿を覆い尽くす幾何学模様などをイメージしていただくと分かりやすいかもしれません。こうした理系のテーマに対し、光延先生が文系の立場から柔軟に寄り添ってくださったおかげで、文理の壁を越えた授業を立ち上げることができました。

**光延** 江戸時代の歌舞伎を専門とする私にとって理系とのコラボレーションは未知の分野でした。ですが、「知のかけはし科目」のコンセプトには共感するところが大きかったので、ぜひチャレンジしてみようと思ったのです。理系の分野とも共通する学習テーマを模索するため、本来の専門分野である文学研究から少し広げるかたちで文化・美術までを視野に入れ、最終的に「江戸美術にみられる幾何学文様」というアイデアに着地しました。その結果、「図形」というキーワードが共通項となり、小館先生の提案された「タイル張り」とのマッチングに至りました。

**小館** 受講生約100名のうち9割が文系学科の学生なのですが、

江戸文化と幾何学をリンクさせることで、理系要素についても苦手意識を持たず楽しく学んでいるようです。

**光延** この授業に取り組むまで、私自身も離散幾何学という分野にはなじみがありませんでしたが、小館先生のお話をうかがっていくうちに、伝統文様にも多くの「タイル張り」図形が含まれていることに気がきました。アニメ『鬼滅の刃』の主人公・竈門炭治郎の羽織の柄として注目を浴びた「市松模様」や、時代劇のお白州のシーンなどで奉行所のふすまに使われている「紗綾形」もそうです。授業では、「タイル張り」要素を含むさまざまな伝統文様について、その由来や使用場面、さらには現代文化との関連性などについて、具体的な事例を紹介しながら掘り下げることにしました。↗

## 「知のかけはし科目」独自の専門性と 広がりを持った授業

**小館** 授業では「タイル張り」と江戸文化をベースに3つのテーマを学んでいきます。すなわち①「タイル張り」×歌舞伎の衣裳デザイン、②タイル・メーカー※1×琳派を中心とした江戸絵画、③変身図形※2×影絵などをモチーフとする浮世絵作品、の3つです。どのテーマでも、授業は「理系の講義／文系の講義／グループワーク／発表」という順で進んでいきます。理系パートでは「タイル張り」の基礎知識を学び、文系パートでは、その「タイル張り」に関連する江戸文化について学びます。そ

人文学科 日本文学専攻  
教授

**光延 真哉**

MITSUBU Shinya

研究分野

日本近世文学

研究キーワード

江戸時代／歌舞伎／日本文化



プロフィール



数理工学科 情報数理学専攻  
専任講師

**小館 崇子**

KODATE Takako

研究分野

分散アルゴリズム／グラフ理論

研究キーワード

ゴシップアルゴリズム／グラフ



プロフィール



してグループワークと発表を行って1サイクルが完了です。1つのテーマごとに5コマを割り当て、全15コマの授業となります。

**光延** グループワークパートでは、実作業を通じて文理の学びを統合してもらい狙いですね。テーマ①のグループワークでは、学生たちにオリジナルの「タイル張り」図形を作ってもらいましたが、その際、「鳥」をデザインモチーフに用いたグループがありました。そこから「伝統文様の中にも鳥をデザインした『千鳥格子』という柄がある」というところまで学びを発展させてくれたのです。学生たちは、「幾何学と伝統文化をリンクする」という視点をしっかり自分たちのものにしてきていると感じました。

※1 全ての展開図が「タイル張り」する図形となる立体のこと

※2 ある図形をいくつかの断片に切り分け、再び1つにまとめると別の図形ができる図形のペアのこと

**小館** これまでにも「タイル張り」と美術作品を組み合わせて論じる視点はあったと思いますが、「知のかけはし科目」では江戸歌舞伎の専門家である光延先生が関わられたことで、独自

の深さと広がりを持った学びになったと感じています。

**光延** その点については、江戸歌舞伎の研究者ならではの一歩踏み込んだ情報提供を意識しています。例えば、テーマ①「タイル張り」×歌舞伎の衣裳デザインでは「市松模様」を深掘りしました。この文様は江戸期の歌舞伎俳優「佐野川市松」に由来していますが、授業では彼の芸の実態まで具体的に紹介しました。市松は特に女性に絶大な人気を博していた役者で、当時



学生の発表に対して、文系・理系双方の視点からコメント

の劇評には「市松が病氣から復帰して女性ファンが大喜びしている」といったことまで書いてあるんですよ。こうした生の声が伝える当時の様子は、現代のアイドル文化にも通じるものがあるのではないのでしょうか。ここに挙げたのは一例ですが、教員それぞれが持つ専門性を背景に、高いレベルで分野横断的な学びを提供できるのが「知のかけはし科目」ならではの強みかと思っています。

## 学生力を育む「グループワーク」と「クリエイティビティ」

**小 小** この授業ではグループワークが大きな役割を果たしていますね。テーマ①では2回にわたってグループワークを行いました。1回目のグループワークは5人で1チームとなります。「タイトル張り」として成立する図形のうち、授業で取り上げた図形は、必ずその図形の周上に「特定の条件を持つ6つの点」を備えているのですが、理系パートではグループで協力してその「6つの点」を探してもらいました。文系パートでは、伝統的文様の中から「タイトル張り」図形を探すとともに、その由来や使われ方などを調べてもらいましたね。2回目は10人が1つのグループとなり、いよいよオリジナルの「タイトル張り」図形を実作してもらいました。

**光 延** 他者との協働に必要なコミュニケーションスキルは実社会でも求められるものですので、グループワークでもさまざまな役割を経験してもらおうようにしています。実際のグループワークでは学生同士が活発に話し合っており、それぞれの得意分野を生かそうと工夫する様子が見られました。そして発表されたオリジナルの「タイトル張り」図形は、そのまま商品化できそうなほど完成度が高く、私たちも想像以上の結果に驚きました。私たちの講義はあくまで「学びのきっかけ」ですので、グループワークで自発的な学びを深めてもらおうという狙いはほぼ達成されていたように思います。

**小 小** 仲間と協力することから得られる充実感は学生にとって非常に大きいものだと思います。作品発表の場でも、仲間の発表から刺激を受けたり時には明るく笑い声が起きたりと、楽しく学んでくれているように見受けられました。これまで私が担当してきた授業ではグループワークを行ったことはなかったので、こうした取り組みは新鮮でした。

**光 延** 授業では、学生がクリエイティビティを発揮できる局面が多いと感じています。文学研究では調べ学習が多いため、何かをゼロから創り上げるような機会は少なかったのですが、小



小 小先生が関わってくださったことで授業にモノづくりの視点を取り入れることができました。

**小 小** 異分野とコラボレーションを行うことで、学びの内容はもちろんのこと、学びのスタイルについても幅を広げることができたのは大きな収穫でしたね。

## さらなる知的関心へと学生をいざなう「分野横断の学び」

**小 小** ひとまずテーマ①の授業を終えたところですが、学生からは「面白かった」「数学には苦手意識があったけれど、江戸文化や自分たちの暮らしとの関連性が発見できたことで興味が出てきた」といった肯定的な声が届いています。「知のかけはし科目」に関わる以前は、文系と理系の学びを融合させることは難しいのではと考えていたのですが、現在は大きな手ごたえを感じています。確かに準備は大変ですが（笑）、私自身も楽しみながら授業を行っています。

**光 延** 「知のかけはし科目」は私たちにとっても新鮮な発見がありますね。その感動がライブ感を持って学生にも伝わっているように思います。私自身、長らく文学研究の立場からなじんできた伝統文様について「実は幾何学的に説明のつくものなんだ」という視点が生まれ、それまで思いもしなかったような説明方法が見いだせるようになりました。こうした気付きが異分野の双方にあるのが「知のかけはし科目」の面白さだと思います。このあと授業はテーマ②、テーマ③と進んでいきますので、今後の展開がさらに楽しみです。

**小 小** 授業を通じて学生からの気付きが多数出ているので、講義内容にその内容を反映していくことも考えられますね。また、初年度の取り組みとしてグループワークから良い結果が得られているので、次年度以降はより少人数のグループで切磋琢磨してもらおうような方向もあるかもしれません。分野を横断する「知のかけはし科目」を、学生がさらに楽しく学べるよう工夫を重ねていきたいと思っています。🌸（聞き手 渋谷 麻子）

## Our Aim



学長

森本 あんり

MORIMOTO Anri

## 日本のどこにもない 新たな全学的分野横断型の授業が始まります！

「リベラルアーツらしい授業」って、いったいどんな授業でしょうか。それは、異分野間の対話と統合がリアルタイムで起きる授業です。従来の「一般教養」課程を全面的に刷新した新しい「知のかけはし科目」は、学生の前で専門の異なる二人の教員が対話をしながら進められる授業です。担当するのはすべて本学の専任教員。人文社会横断型と自然科学包含型、全部で35科目が開講される予定で、卒業までの4年間に両方の型から少なくとも4科目8単位を履修することが求められます。学生たちは、自分の知らない知の世界が展開されるのを教員と一緒に体験し、問い問われ、考えます。それは、知的にスリリングなだけではありません。卒業後の学生たちを待ち受けているのは、予測も計画もできない未知の現実です。既存の知が通用しない現代世界でこそ、新しい知見に開かれた心を持ち続け、自信をもって時代の挑戦に立ち向かうことのできる人を育てたい。これが新しい「知のかけはし科目」を通して実現する本学のリベラルアーツ教育です。✿

知のかけはし科目運営委員長  
国際社会学科 国際関係専攻 教授

根本 和幸

NEMOTO Kazuyuki

## 前例のない「知のかけはし科目」で 何が身に付くのか？

これほどまでにAI（人工知能）が発達し、これまで人間のみが行ってきた「考えて創造する」という知の営みを、AIが生成できる時代になりました。そこで私たちは、考えます。生成AIと「どのように」付き合うことが必要で、「どのように」すれば、私たちがいっそう幸せに、そして社会がより良くなるのでしょうか？これは「卒業後の生き方」にも直結する課題です。技術や環境の変化が速く、従来の常識では解決が見通せないこれからの時代を生きる時、私たちが身に付けておくべきことは、自分の中の常識や価値観を共有しない他者と対話して相互理解を深める能力なのではないでしょうか。

この「知のかけはし科目」は、「〇〇とは何か」(=what) といった知識を学ぶことを目的にはしていません。むしろ、「〇〇とは何か」という問い自体を「どのように考えるか」(=how) ということが重視されます。そのために、「知のかけはし科目」は、専門分野の異なる2名の教員が「チーム・ティーチング」を行い、「〇〇とは何か」という問いをそれぞれの立場から問い直して、複眼的に「問いを問う」という学びの楽しさを提供します。学問領域の相違や文理双方の学びを交差的に経験することにより、新しい知見に開かれた態度を身に付けることが可能になります。新しい知見に直面してもしなやかに受容できる態度は他者への寛容さや卒業後も持続する学びにつながります。多様性を尊重して複眼的にビジョンを示せる自信こそが、これまでの社会をより良い方向にイノベティブに再構築する原動力になるのです。✿

TWCU **OG** TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆

Vol.13

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

## チャレンジが 妨げられない環境で 人生を切り開く

広告会社の営業職として、クライアントの課題解決・事業変革のためのプロジェクトやコミュニケーションをリードし、伴走するという日々を送っています。私の仕事は決して独りで完結することはなく、社内外の方々との協力が必要不可欠です。難しい課題や予想外の困難に直面した際に、それぞれが各領域のプロフェッショナルとしての自覚とプライドを持って尽力し、全体として最大限のパフォーマンスを発揮できたとき、「チームっていいな、仕事っていいな」と心からやりがいを感じます。

高校生の頃からマスメディアについて学びたいと考えており、東京女子大学では社会学専攻に入りました。メディアに関わる他専攻の授業も受講できることはとても魅力的でしたし、付属校がなく全員が同じスタートラインでキャンパスライフを始められる点もポジティブに感じました。当時はとにかく自分の興味のあることに夢中で、学業以外にもマスメディアに関わるサークル活動やテレビ局でのアルバイトなどに励み、新しい世界に積極的に飛び込んでいました。あの時自分の好きなことを深掘りし、興味のままに行動することが妨げられない環境で大学生活を送れたということが、その後のキャリア選択につながっています。

社会や日常の事象、ルールや文化に自分なりの視点を持つという意識も、大学で培うことができました。多様なものの見方や考え方を示唆する授業の中で、「自分ならどうするか・どう考えるか」と問われる場面が多々あり

株式会社電通 ビジネスプロデューサー

勅使川原 奈々さん

TESHIGAWARA Nana

2017年3月現代教養学部国際社会学科社会学専攻卒。伊奈ゼミ。卒業後、株式会社電通カスタマーアクセスセンター(現：株式会社電通プロモーションエグゼ)にて、営業・ディレクターとして電通グループの担うプロモーション領域におけるキャンペーン業務を主に担当。2020年12月より現職。



ましたが、こうした意識は仕事のみならず、人生を自分のものたらしめる上でなくてはならないものです。そしてその上で、自分とは異なる考え方・ものの見方を尊重する大切さも実感しました。自分の考えをきちんと伝えたと上でベストな着地点を模索し、互いを尊重し合うことができる協調性こそが私にとっての「東京女子大学らしさ」です。このような環境だからこそ、私もチャレンジしたい気持ちを否定されたり妨げられたりすることなく、のびのびと活動することができたのだと思います。

東京女子大学で学ぶ皆さんも、ぜひ在学中に「自分がどんなことに興味があるのか」をたくさん模索してほしいです。学びも、学び以外の環境も、主体的に動くことにとっても寛容な恵まれた環境を謳歌しながら、自分の世界を広げてみてください。🌸

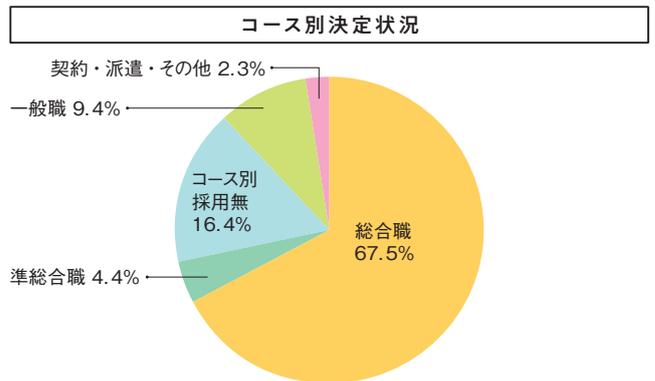
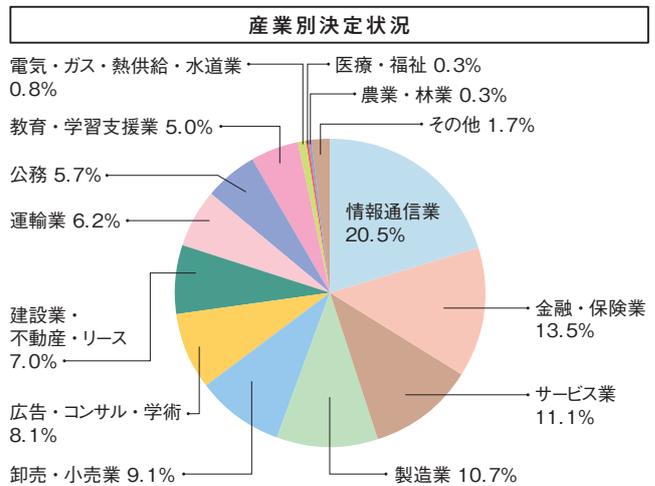


## 2023年度就職決定状況

2024年3月卒業者の就職率は99.4%（前年:99.2%）となり、前年よりも高い就職率を維持することができました。学生たちを支えてくださったご家族に感謝いたします。

情報通信業、金融・保険業が上位という状況は引き続き同様ですが、近年はどちらも減少傾向にあります。代わりにサービス業や広告・コンサルティング・学術研究機関などの専門性の高い事業を展開する業界、製造業などへの就職者が増加傾向です。そのため全体として、特定の業界に偏ることなく、さまざまな業界に就職しています。また、総合職の割合は2年前に約10ポイント上昇した高い数値からさらに増加し、67.5%（前年：63.6%）です。多くの学生が意欲を高く持ち、キャリアを自ら切り開いています。

企業の採用活動も活発化し、採用数を増やす企業が増えると同時に、賃上げの影響で初任給を大きく引き上げる企業も増えました。引き続き売り手市場の環境が維持されると予想されます。採用手法は、対面とオンラインのハイブリッドが引き続き主流となっており、AI選考などの登場によって、採用活動の効率化や選考手法の多様化が進んでいます。今後も変化する状況に対応し、さらなる支援の改良に努めてまいります。



## 近畿大学と合同で2年生対象の課題解決型プログラムを実施

2024年2月、3月に近畿大学と合同で、株式会社電通総研と株式会社ニトリホールディングス協力の下、大学2年生を対象とした課題解決型プログラム「企業と共に社会を変える 3Days 課題解決型プログラム」を東京と大阪の2コースで実施しました。

本プログラムは自分の活動が社会とどのように関係し、自分がどう社会に貢献できるかを考えることを目的としており、近畿大学との合同イベントはキャリア・センターとして初の試みです。参加者は東京コースと大阪コースに分かれ、各コースで設定されたテーマについて、2大学合同のグループで課題解決に取り組みました。各コースのプログラム最終日には、グループで話し合った具体的な成果について、株式会社電通総研の社員と株式会社ニトリホールディングスの社員に向けてプレゼンテーションを行いました。社会人との交流や他大学の学生とのグループワークを通し

て、社会課題へのアプローチ方法や自分の活動が社会とどのように関係し、どのように社会貢献できるかを実践的に学び、多角的な視野や考え方を身に付けることができました。参加者からは「自分の将来を新しい観点で見つめなおすことができた」「限られた時間で課題に向き合うのは難しかったが、将来必ず必要になる力だと思うので今のうちに経験できて良かった」などの感想が寄せられました。



大阪コース最終日の集合写真

## はばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、  
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

日本文学専攻の和田ゼミ有志学生が、  
外国語で日本昔話がかかれたちりめん本の日本語訳および、それを通じた海外大学との相互学習に取り組みました。  
参加学生に活動の様子を語っていただきました。

【代表執筆者】  
人文学科 日本文学専攻 4年

中田 有咲 NAKATA Arisa

【参加メンバー】

伊藤里紗、大原陽果梨、金本さゆり、小和田理紗、  
清水碧、竹田そあ、中田有咲、南穎、柚原李香

人文学科日本文学専攻和田博文先生の4年次ゼミ（近現代文学）の有志9名と、タイのシーナカリンウィロート大学の日本語を学ぶ学生が、「ちりめん本の翻訳」を通して交流しました。英語版のちりめん本を私たちが日本語訳し、タイの学生らがタイ語訳した後、翻訳の意見交換をしました。ちりめん本とは、1880年代から1930年代まで出版された、日本昔話などを外国語に翻訳し、色刷りの挿絵を添えた小型の和綴じ本です。絹織物の縮緬のように細かく皺を寄せた和紙で作られているのが名前の由来で、外国人向けのお土産として人気がありました。今回は、そのちりめん本から「浦島」「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」などの日本昔話を1人1作品ずつ翻訳しました。この活動は、「和訳」と「タイ語訳」を使用し、タイ語を母語とする人向けの日本語タイ語対照テキストをebookとして刊行しないかという、タイの大学の先生からのお誘いから始まりました。私は日本語教員養成課程を履修していることもあり、日本語学習の助けとなるならぜひ協力したいと思い、参加を決めました。翻訳を始めると、興味深い部分が出てきます。例えば、私が担当した「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」



ちりめん本「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」お酒を酌み交わす場面

「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」などの日本昔話を1人1作品ずつ翻訳しました。この活動は、「和訳」と「タイ語訳」を使用し、タイ語を母語とする人向けの日本語タイ語対照テキストをebookとして刊行しないかという、タイの大学の先生からのお誘いから始まりました。私は日本語教員養成課程を履修していることもあり、日本語学習の助けとなるならぜひ協力したいと思い、参加を決めました。翻訳を始めると、興味深い部分が出てきます。例えば、私が担当した「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」

### ちりめん本翻訳を通じた国際交流



参加メンバー

には妖怪がお酒を酌み交わす場面があります。私は「<sup>こぶとり</sup>猿蟹合戦」の時代背景から「盃」で「日本酒」を飲む姿を想像していたのですが、代わりに出てきた単語は“winecup”と“wine”でした。この時代の宴会にワイン？と一瞬疑問に思いましたが、ちりめん本は外国人に向けたもの。外国人にとってなじみのない物事は、似たような物事に「見立ての翻訳」がなされるのです。この経験は、普段私がいかに自分自身の背景に影響されて作品を読んでいるかを知る機会になりました。

その後、タイの学生と完成した翻訳を持ち寄り、意見交換を行いました。タイの学生はタイ語訳だけでなく、学習の一環で和訳も行っており、相互の和訳の違いについても見比べました。和訳のうまさに関心するとともに、私が注を付けなかった部分にも注を付けるなど、日本語を勉強する立場だからこそその視点が興味深く感じました。お互いに発見のある、有意義な時間になったと思います。

私たちの和訳・タイ語訳を載せたebookは、『ちりめん本で読む日本の昔話』というタイトルで刊行されます。タイの日本語学習者の楽しい学びにつながるよう、願っています。

『ちりめん本で読む日本の昔話』

<https://anyflip.com/ofikn/bzmj>



ちりめん本はいつでも東京女子大学比較文化研究所所蔵





【今号のテーマ】

## 今、挑戦していること

2024年度の新学期を迎え、キャンパス内は活気に満ちています。この春、気持ちも新たにさまざまなことに挑戦した方もいるのではないのでしょうか。自身の興味・関心の幅を広げながら、学内外での学びや取り組みに挑戦している学生記者に話を聞きました。

キリスト教学の副専攻に取り組んでいます。授業では聖書の教えやキリスト教の歴史を学びますが、信仰を強制されることはありません。私は高校まではキリスト教系の学校ではありませんでしたが、宗教や神話に関心を持っていたこともあり、楽しく学ぶことができています。

現在は、キリスト教に深く関係しているギリシア語・ラテン語などの言語にも挑戦しています。

(人文学科 哲学専攻 2年 松島 蓉子)



私は今、第一外国語(英語)・第二外国語の他に、第三の外国語履修としてドイツ語にチャレンジしています。東京女子大学では、全員が第一外国語・第二外国語を履修するカリキュラムになっていますが、希望者は2年次からさらに第三・第四の外国語を履修することができます。

3つ目の外国語の授業は、他の授業と比較すると少し大変ではありますが、その分、新たな言語の世界を知ることができる達成感とやりがいを感じています。

(人文学科 歴史文化専攻 2年 八木 梨菜)

晴れて大学生となってから早くも1年がたち、忙しい毎日を送る中で“大学生”である意義を見失いつつありました。義務教育を終えて5年。気になることを深掘りする機会を自ら得る必要性とその重要性を実感し、この春から自分の関心分野である、教育哲学の研究者が運営する学外のオンラインゼミに入会しました。

子どもと大人のはざまにある“自由”を持てる大学生だからこそ、自分が「やりたいな」「気になるな」と思ったことには積極的に取り組みたいと思い、読書会やミーティングに参加しています。

オンラインならではの参加のしやすさを実感しながら、この時代の進化の恩恵に預かり、これからさらに有意義な大学生生活を送りたいです。



(国際社会学科 社会学専攻 2年 狩野 いずみ)

## 学生広報Instagram「東女Color」が始動します！

東女Color メンバー  
数理科学科 数学専攻 3年  
島村 芙美子 SHIMAMURA Fumiko

2024年度より広報課公認の学生広報Instagramアカウント「東女Color」を開設しました！「東女Color」は東女生の日常を、よりリアルな目線で発信したいという思いの下、運営しています。東京女子大学は、オシャレで自然豊かなキャンパスで意欲的に学問を探究できる環境が整った大学です。真面目さを備えつつ、「今」を楽しむ東女生らしさあふれる魅力を皆さまにお届けできればと思っています。東女ならではのイベントや近隣のグルメもご紹介します。

在学生、保護者、OGの方々などにも愛されるSNSを目指して活動してまいりますので、ぜひ、フォローをお願いします！🍀



## 第5回 タイ・ワークキャンプ報告

2024年2月14日（水）から23日（金）まで、タイ北部チェンライ郊外にある山岳少数民族の児童養護施設「メーコックファーム」でのボランティアを通して建学の精神である「Service and Sacrifice」を学ぶ、第5回タイ・ワークキャンプが開催されました。参加学生に体験の様子を語ってもらいました。

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 2年

萩原 結花 HAGIWARA Yuika

タイ・ワークキャンプで過ごした10日間はとても濃く充実したもので、さまざまな取り組みを通して異文化やSS精神を実践的に学ぶことができました。

メーコックの子どもたちとの交流は、とても心温まる時間でした。言葉は通じなくても、一緒にゲームをしたり、現地の遊びを教えてもらったりなどたくさん交流し、別れのときにはお互いに涙を流すまでにかげがえのない存在となりました。日曜日の礼拝では、子どもたちはおめかしをして楽器の演奏に合わせて歌い、楽しいひと時となりました。

ボランティアワークでは、チャペル内外のペンキ落としやセメントによる堤防作り、約150人分の部屋の掃除やベッドメイキング、料理作り、他にもいろいろなお手伝いをしました。力や根気のいる作業もありましたが、取り組む前にメーコックの総主事のアマラックさんがメーコックの歴史を話してくださり、その中で諦めないことの大切さを学び、ワークに生かすことができました。

他にも現地の小学校や山岳民族の村落などを視察し、タイの文化や少数民族について学び、異文化理解を深めることができました。ゴールデントライアングルを訪れた際には、川がタイとラオスとミャンマーの国境となり、同じ民族でも異なる国に分かれているという、少数民族の置かれている状況を知りました。

これまでキリスト教学の授業でSS精神について学び、頭では理解していましたが、行動として何ができるのかは自分の中で見つけることができていませんでした。しかし、タイ・ワークキャンプを通して、SS精神を実践的に学ぶことができたと思います。文化や環境が日本とは異なり慣れないこともありましたが、全てが刺激的で世界が広がったように感じ、また共に生活し分かち合える仲間がいたことで前向きに乗り越えられました。

今回のタイ・ワークキャンプに参加できて本当に良かったと心から思います。学年や専攻が異なる人たちと関わりを持ち、愛にあふれたメーコックの方々とお会いしたおかげで、かけがえのない10日間になりました。アマラックさんやメーコックのスタッフの皆さんと子どもたち、一緒に過ごした17人と先生方に深く感謝します。✿



メーコックでは植樹も行いました



お別れ会のために太巻きを作りました



堤防のために土のうを作りました

## TOPICS

## 国際基督教大学と包括協定を締結

2024年4月26日(金)、東京女子大学と国際基督教大学は、キリスト教精神に基づくリベラルアーツ教育を実践しているという共通点に鑑み、互いの教育研究の資源を活用して協力し、有為な人材の育成、教育の充実に寄与することを目的とした包括協定を締結しました。

今後は、右記の項目について包括的な連携を深めていきます。

- (1) 学生(大学院生、留学生を含む)及び教職員の相互交流に関すること。
  - (2) 教育・研究に関する学術交流と情報交換に関すること。
  - (3) グローバル化の推進に関すること。
- 詳細は公式サイトをご覧ください。



公式サイト

## ジェイアール東日本都市開発と産学連携プログラムに関する協定を締結

2024年3月27日(水)、東京女子大学と株式会社ジェイアール東日本都市開発は「産学連携プログラムに関する協定」を締結しました。双方ともに初めてとなる大学と民間企業間の継続的な産学連携の取り組みとなります。西荻窪北町高架下開発(仮称・開発中)を舞台とした学生に

よるまちづくりアイデアの提案・実行といったプログラムを、国際社会学科コミュニティ構想専攻の舛山真人特任教授のゼミを通して実施予定です。

詳細は公式サイトをご覧ください。



公式サイト

## 国際女性デー特別企画講演会報告

2024年3月20日(水・祝)に「日々物足りなさを感じる女性に伝えたい とにかくやってみる生き方～杉並区長から学ぶ、点を面にするためのアイデア～」というタイトルで国際女性デー特別企画を開催いたしました。

第1部は、「女性の生き方と点を面にするためのアイデア」というテーマで杉並区長の岸本聡子氏のお話をうかがいました。地盤のない新人である岸本氏がどうやって区長になられたのか、というお話は、まさに「とにかく

エンバウメント・センター センター長  
国際社会学科 国際関係専攻 准教授

永原 歩 NAGAHARA Ayumi

やってみる生き方」を具現する内容でした。

第2部では「予測不可能な時代における女性の生き方」というタイトルで、岸本氏と本学同窓生の松本肇子氏、篠原めい氏、吉武悠氏の3名、そして総合司会も務めてくださった同窓生の桜田陽子氏をファシリテーターに、パネルディスカッションを実施しました。非常に前向きなお話を多くうかがうことができ、会場の参加者の方々からも好評を頂きました。✿

## カフェテリア(学生食堂)1階の内装リニューアル

2024年3月、11号館1階カフェテリアの内装をリニューアルしました。「食堂のイメージにとらわれず多目的に使用でき、居心地よくいられる空間」をコンセプトにこれまでのイメージを一新しました。食事以外にも小休憩や自習スペース、コミュニケーションスペースとして利用できます。なお、このリニューアルには東京女子大学教育後援会からのご寄付を一部充てさせていただきました。この

場をお借りして厚く御礼申し上げます。

食堂の混雑を緩和するために、4月からキッチンカーを導入しました。食堂とは趣の異なるメニューが日替わりで提供され、連日にぎわいを見せています。



## 2023年度エクセレント・ファカルティの決定

教育職員業績評価制度の一環として特に優れた業績をあげた教育職員に与えられる2023年度エクセレント・ファカルティに以下の3名が選出され、2024年2月28日(水)に表彰式が行われました。

心理・コミュニケーション学科  
コミュニケーション専攻 特任講師

### 藤田 恵理氏

〈選定理由〉複数の外部資金を獲得し「大学体育におけるこころの準備運動としての「笑い準備運動」の教育効果」で優秀論文賞を受賞するなど研究面の活躍のみならず、ウェルネスの教科書にジェンダー平等や生物学的多様性を書き加え、笑いの準備運動の研究成果を授業に取り入れて教育にも優れた貢献をされたことが評価されました。

数理科学科  
数学専攻 教授

### 新國 亮氏

〈選定理由〉研究面においては外部資金を獲得しながらトポロジーの研究を継続的に実施し、著書や国際学術誌で複数の論文を執筆するなど学術的な貢献をされてきたこと、教育活動においては、学部教育および大学院教育に熱心に取り組まれてきたこととその優れた活動が評価されました。

数理科学科  
情報理学専攻 特任講師

### 山口 幸氏

〈選定理由〉研究面においては一貫した姿勢で理論的研究を中心に進め、コンピュータシミュレーションや数学モデルを用いて海洋生物の生態学・進化学の発展に大きく寄与したこと、教育面においては学部学生に対する教育において非常に優れた活動を行い、受講学生たちからも高い評価を得てきたことが評価されました。

※記載の所属・役職は受賞当時のものです。

## 第7回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト報告

第7回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテストが実施され、国内外の高校生、大学生、社会人から多数の応募がありました。書類審査を経て、2023年11月25日(土)に最終審査会がオンラインにて実施されました。事前提出されたビデオレターおよび当日のプレゼンテーション・質疑応答により審査が行われ、起業部門からは、

東女賞1件、優秀賞2件、奨励賞2件が、アイデア部門からは、東女賞1件、優秀賞1件、VERA賞1件、奨励賞2件が選出されました。また、最終審査会では、前回の東女賞、奨励賞を獲得したプランの報告がありました。新事業として展開しているプランもあり、本コンテストからは社会的意義のある成果も生まれつつあります。

## 第8回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト 募集要項

2024年度は以下の通り実施します。

### 1. 応募資格

高校生以上の女性で、次の①・②のどちらかに該当する方

- ①新たに起業をする意思のある方、もしくは今回のアイデアを実行する意思のある方
- ②これから新たな事業展開を予定している方、もしくは事業を開始して間もない方、もしくは事業に着手段階の方

### 2. スケジュール

- ①募集期間：2024年9月2日(月)～9月30日(月)
- ②書類審査結果通知：2024年10月16日(水)
- ③最終審査会：2024年11月24日(日)

### 3. 応募部門等

- ①起業部門：  
事業企画・資金計画が具体化されたプランニング
- ②アイデア部門：  
資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

### 4. 表彰

各部門により、表彰状のほか、賞金・記念品を贈呈します。

### 5. 応募書類送付先

東京女子大学教育研究支援課  
twcu-bpc@gr.twcu.ac.jp



詳細は東京女子大学公式サイトをご覧ください。

[https://www.twcu.ac.jp/main/topics/2024/0423\\_05.html](https://www.twcu.ac.jp/main/topics/2024/0423_05.html)

REPORT

事務局長

安藤 由紀美

## 2024年度事業計画および予算の概要

2024年度の事業計画および予算を本年3月の理事会で決定し、公表いたしました。詳細は、本学公式サイトをご覧ください。

### 【事業計画の概要】

2024年度は教学改革の第一段階が始動します。全学共通カリキュラムを改正し、異なる学問領域の教員2名によるチーム・ティーチングを行う「知のかけはし科目」を創設しました。加えてAI・データサイエンス教育の充実、英語力の強化を図ってまいります。

本学の強みとなる教育内容を積極的に発信していくため、広報活動にも力を入れてまいります。また、安全で快適なキャンパスを維持していけるよう、学生の学びを支える教育環境の整備を行います。さらには2025年度に実施する教学改革第二段階に向けた学科再編の準備を確実に行ってまいります。



2024年度  
事業計画

### 【予算の概要】

2024年度は、教学改革推進に向けた取り組み、キャンパスの施設・設備の拡充整備、デジタル化などの社会環境の変化に対応する予算を計上しました。

事業活動収支予算は、事業活動収入5,349百万円、事業活動支出5,767百万円。当年度収支差額は基本金組入前で△417百万円。466百万円の基本金組入後で883百万円の支出超過の見込みです。これに前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は1,133百万円で、その大宗は、過年度に受け入れた奨学金寄付金です。



2024年度  
予算

NOTICE

## 2025年度現代教養学部 一般選抜・総合型選抜入試日程

入試方式	学科(専攻)	出願期間	試験日	合格者発表日	
個別学力試験型 英語外部検定試験利用型	人文学科(英語圏文化専攻/歴史文化専攻)	Web出願登録期間 1/3(金)~1/19(日)23:00まで 必要書類提出期間 1/19(日)消印有効	2/3(月)	2/11(火) 16:00	
	経済経営学科				
	心理学科				
	人文学科(哲学専攻/日本文学文化専攻)				
	国際社会学科				
	社会コミュニケーション学科				
情報数理科学科					
一般選抜 大学入学共通テスト 3教科型	全学科(専攻)	Web出願登録期間 1/3(金)~1/17(金)23:00まで 必要書類提出期間 1/17(金)消印有効	大学入学 共通テスト 1/18(土) 1/19(日)	個別試験 なし	2/7(金) 13:00
		Web出願登録期間 1/3(金)~1/23(木)23:00まで 必要書類提出期間 1/23(木)消印有効			
		Web出願登録期間 1/3(金)~1/23(木)23:00まで 必要書類提出期間 1/23(木)消印有効	大学入学 共通テスト 1/18(土) 1/19(日)	個別試験 2/11(火)	2/21(金) 13:00
Global Citizenship Program Link 型		Web出願登録期間 1/3(金)~1/23(木)23:00まで 必要書類提出期間 1/23(木)消印有効	大学入学 共通テスト 1/18(土) 1/19(日)	個別試験 2/11(火)	2/21(金) 13:00
3月期	人文学科(哲学専攻/日本文学文化専攻)	Web出願登録期間 2/17(月)~2/27(木)23:00まで 必要書類提出期間 2/27(木)消印有効	大学入学 共通テスト 1/18(土) 1/19(日)	個別試験 3/7(金)	3/10(月) 20:00
	国際社会学科				
	情報数理科学科				
	人文学科(英語圏文化専攻/歴史文化専攻)				
	経済経営学科				
	心理学科				
社会コミュニケーション学科					
総合型選抜 知のかけはし 入学試験	全学科(専攻)	9/2(月)~9/9(月) 9/9(月)消印有効	第一次選考結果発表 9/27(金)10:00		11/1(金) 10:00
			第二次選考 10/19(土)		

## REPORT

## ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。  
ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

## NOTICE

## 新任教員紹介

## ●教育職員

山田 有希子	人文学科 哲学専攻 教授
長谷川 克之	国際社会学科 経済学専攻 教授
小西 由樹子	国際社会学科 経済学専攻 准教授
Brewster, David	国際社会学科 社会学専攻 准教授
小森 めぐみ	心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 准教授
八木 真奈美	心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 特任教授
高柳 妙子	心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 特任准教授
富谷 昭夫	数理科学科情報数理科学専攻 専任講師
逸見 シャンタル Cunningham, Neale	英語センター 教授 英語センター 特任教授
磯部 理美	国際英語学科 国際英語専攻 嘱託講師

## ●特別客員教授

内田 和成	特別客員教授
高原 明生	特別客員教授

※2024年4月1日付

## NOTICE

## 新任理事・評議員

【理事】	鷹野 志穂	2024/4/1~2027/3/31
【評議員】	唐澤 真弓	2024/4/1~2026/9/30

## 同窓会からのお知らせ

同窓会主催行事に在校生、  
ご家族のご参加をお待ちしています。  
イベント、講座をやむなく中止・延期する場合は  
同窓会ホームページにてお知らせします。  
開催の有無を必ず確認の上、ご参加ください。  
お申し込み詳細は同窓会ホームページで。

Tel. 03-3395-4448  
Fax. 03-3395-0084  
<https://www.twcu-alumnae.jp/>  
E-mail: office@twcuaa.jp  
X(旧Twitter): @vera\_twcu  
(9:00~17:00開館 日・月曜日、祝日休館)



同窓会  
ホームページ

### 日本の伝統文化講座

「歌舞伎と浮世絵—江戸時代の芝居小屋にタイムスリップ!—」

講師：藤澤 茜氏 (神奈川大学准教授)

日程：7月20日(土) 13:30~15:30 オンライン (Zoom) 併用

会費：2,200円 学生500円

会場：東京女子大学キャンパス内 23号館 23201教室

### 後期キリスト教講座「聖書の世界—使徒宣教の地、歴史探訪」

講師：遠藤 勝信 (東京女子大学教授)

日程：10月3日・24日(木) 15:00~16:30 オンライン (Zoom) 併用

会費：全2回2,500円、1回1,400円 学生1回500円

### 臨地講座

「山梨 印傳屋上原勇七工場見学と紅葉の昇仙峡」〈日帰りバスツアー〉

日程：11月6日(水)

会費：12,600円(旅行代金とは別に2,000円以上のご寄付を頂戴します)

### クリスマス企画

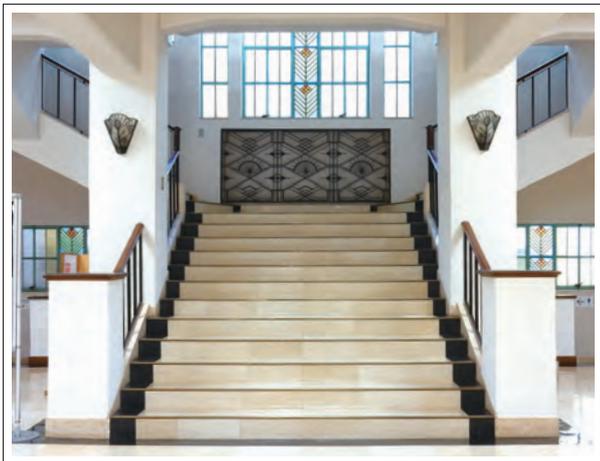
「フィンランドのクリスマスのお話とリース作りで迎えるアドヴェント」

講師：ユハ・ライティネン氏 (フィンランド在住コーディネーター) およびボランティア

日程：11月28日(木) 13:30~15:30

会費：3,000円 学生500円(材料費込み)

※後期キリスト教講座とクリスマス企画は72年館で開催します。



表紙の場所

本館。正門をくぐるとまず目に入る白亜の本館は、美しいキャンパスのシンボルです。「QUAECUNQUE SUNT VERA」(すべて真実なこと)の標語が白亜の壁に刻まれています。図書館として利用された過去もありますが、現在は教室として使用されるほか、創立90周年を機に開設された新渡戸記念室を有しています。正面入口前の2本の木は、12月にはクリスマスツリーとなります。

#### 広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



#### VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」(すべて真実なこと)は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章 8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

#### Web アンケート

『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



# VERA

第1号 / 2024年度

## Contents

- 02 SPECIAL FEATURE  
「知のかけはし科目」対談  
「幾何学×江戸文化」から  
生まれる刺激的な学び  
……光延 真哉、小箱 崇子  
日本のどこにもない新たな全学的分野横断型の  
授業が始まります!……森本 あんり  
前例のない「知のかけはし科目」で  
何が身に付くのか?……根本 和幸
- 06 Career  
TWCU OG TALK vol.13……勅使川原 奈々さん  
2023年度 就職決定状況/  
近畿大学と合同で2年生対象の  
課題解決型プログラムを実施
- 08 Students  
はばたけ東女生!……中田 有咲(代表執筆)  
STUDENT PRESS Vol.8……今、挑戦していること  
学生広報Instagram「東女Color」が始動します!
- 10 Studies  
第5回 タイ・ワークキャンプ報告……萩原 結花
- 12 TOPICS  
国際基督教大学と包括協定を締結/  
ジェイアール東日本都市開発と  
産学連携プログラムに関する協定を締結/  
国際女性デー特別企画講演会報告/  
カフェテリア(学生食堂)1階の内装リニューアル/  
2023年度エクセレント・ファカルティーの決定/  
第7回東京女子大学  
ビジネス・プランニング・コンテスト報告/  
第8回東京女子大学  
ビジネス・プランニング・コンテスト募集要項
- 14 NEWS  
2024年度事業計画および予算の概要  
……安藤 由紀美/  
2025年度現代教養学部  
一般選抜・総合型選抜入試日程/  
ご支援へのお礼/新任教員紹介/  
新任理事・評議員/同窓会からのお知らせ



2024年6月28日発行

東京女子大学

発行:東京女子大学 編集:広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL:03-5382-6476(広報課)

公式サイト

